

広島県「教育に関する大綱」に盛り込む項目（案）

～ 広島で学んだことに誇りをもち、高い志のもと、世界の人々と協働してイノベーションを生み出すことのできる人材の育成を目指して ～

I 確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成

① 幼児期において質の高い教育・保育を行うための環境整備

- ✓ 家庭の状況に応じて養育する場が異なり、取組の差も生じているなどの課題がある。
- ✓ 養育環境に関わらず、県内すべての幼児が、質の高い教育・保育を受けることのできる環境を整備する必要がある。

② 「知・徳・体」のバランスのとれた「基礎・基本」の徹底

- ✓ 生涯にわたり学習する基盤を培う義務教育段階及び高等学校教育段階においては、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」のこれらすべての力をバランスよく身に付けることが重要であり、すべての子供たちが、こうした力を確実に習得できるようにしていく必要がある。

II これからの社会で活躍するために必要な資質・能力の育成

③ 「これからの社会で活躍するために必要な資質・能力の育成を目指した主体的な学び」を促す教育活動の推進

- ✓ グローバル化の進展など、変化の激しい社会においては、自ら深く考え、知識や情報を統合して新しい価値を創り出す力、多様な他者と協働・協調できる力を有する人材が求められる。
- ✓ このため、これまでの「知識ベースの学び」に加え、「資質・能力の育成を目指した主体的な学び」を促す教育活動を系統的に推進していくことが重要となる。

④ 今後の社会経済環境の変化に対応できる高度な能力や資質を有する人材の育成

- ✓ 高等教育においては、社会に人材を送り出す最終段階の教育の場として、高度な資質や能力を有する人材の育成が一層求められている。
- ✓ 県内の高等教育機関による、社会が求める人材育成や地域に貢献する教育研究の充実を図ることが重要である。

Ⅲ 厚みのある多様な人材層の形成

⑤ 一人一人の多様な個性・能力をさらに生かし、他者と協働しながら新たな価値を創造していくことができる力の育成

- ✓ 県全体の経済や生活に影響を及ぼすグローバル化の進展や生産年齢人口が減少していく中で、「ピンチ」を「チャンス」に変えていくためには、「地域の成長・発展を支える人材」から「世界を舞台に活躍する人材」まで、厚みのある人材層を形成していくことが不可欠。
- ✓ このためには、一人一人がⅠとⅡの力を身に付けた上で、一人一人の多様な個性や能力をさらに伸ばしていく中で、社会の様々な人々と協働しながら、新たな価値を創造していくことができる力を育成していくことが重要である。

Ⅳ 安全で安心して学べる教育環境の構築

⑥ 教育上特別な配慮を必要とする児童生徒への支援

- ✓ 次代を担う子供が、将来、生まれ育った環境に左右されることなく、健全に成長できるよう、社会全体で支援していく必要がある。
- ✓ 特に、世代をまたがる格差が再生産・固定化されることを防ぐためにも、家庭の経済状況や子供の学力等に応じた適切な支援が必要である。

⑦ 学校・関係機関等が連携した安全・安心な学校環境の構築

- ✓ 学校が児童生徒にとって安心できる教育現場であることが大切であり、学校・家庭・地域等が連携した取組の推進や体制の整備・構築を進めていく必要がある。
- ✓ 学校における児童生徒等の安全の確保に努めていくことも重要である。

⑧ 学校・家庭・地域等が連携した地域社会の教育力向上

- ✓ 現代の社会は、家庭環境の多様化などにより、家庭教育が困難な社会となっており、家庭教育への支援の強化や課題を抱える家庭への支援が大切である。